

パン用小麦「ミナミノカオリ」の穂発芽の発生を回避し、生産安定を図るための播種時期					
[要約] 「 <u>ミナミノカオリ</u> 」の <u>穂発芽</u> の発生を避けるため、 <u>梅雨入り</u> の平年値である6月5日までに収穫を行うには、4月15日までの出穂が必要である。 <u>穂発芽</u> の発生と、 <u>凍霜害</u> や <u>雑草害</u> の危険を回避するには、11月10日～11月20日が播種の適期である。					
佐賀県農業試験研究センター 作物部・作物栽培研究担当			連絡先	0952-45-8807 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	作物	専門	栽培	対象	麦

[背景・ねらい]

県内で栽培されているパン用小麦「ミナミノカオリ」は熟期が遅く、穂発芽しやすいため、収穫時期が梅雨に重なった場合、穂発芽の発生により検査等級が規格外に格付けされるなど、品質の低下が問題となっている。穂発芽の発生を回避し、生産の安定を図るため、「ミナミノカオリ」の適正な播種時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 「ミナミノカオリ」の出穂期から成熟期までの登熟期間は50日前後必要で（表1）、出穂期が4月15日以降になると、年によっては成熟期が梅雨入りの平年値である6月5日より遅くなることもあり、降雨に遭い穂発芽の発生する危険が高まる（図1）。
- 出穂期を4月15日より早くするためには、播種期を11月20日より前にする必要がある（図1）。
- 11月20日以前の播種でも、大きな減収や品質の低下はみられない（表1）。
- 遅播きによる穂発芽発生の危険と、早播きによる凍霜害や雑草害の危険を考慮すると、「ミナミノカオリ」の播種の適期は、11月10日～11月20日である。

[成果の活用面・留意点]

- 県内の「ミナミノカオリ」の栽培において適用できる。
- これらは基準通りの施肥（6-3-3-4）を行った場合の結果である。出穂期が4月15日より遅れた場合、穂揃期追肥を減肥すれば、成熟期を1～2日早める事が出来るが、子実タンパク質含有率は1.5～2ポイント程度低下する。
- 収穫時期の降雨により穂発芽の発生が予想される場合、成熟期前でも、子実水分が30%以下になれば早刈りするなどの対応について検討しておく。
- 11月1日から11月5日の播種では、出穂期が4月第1半旬より早くなるため、年によっては凍霜害が発生する危険がある。また、スズメノテッポウなどの雑草の発生量も多く、雑草害の発生により子実タンパク質含有率が低下する事もあるため、11月第1半旬の播種は避ける。

[具体的なデータ]

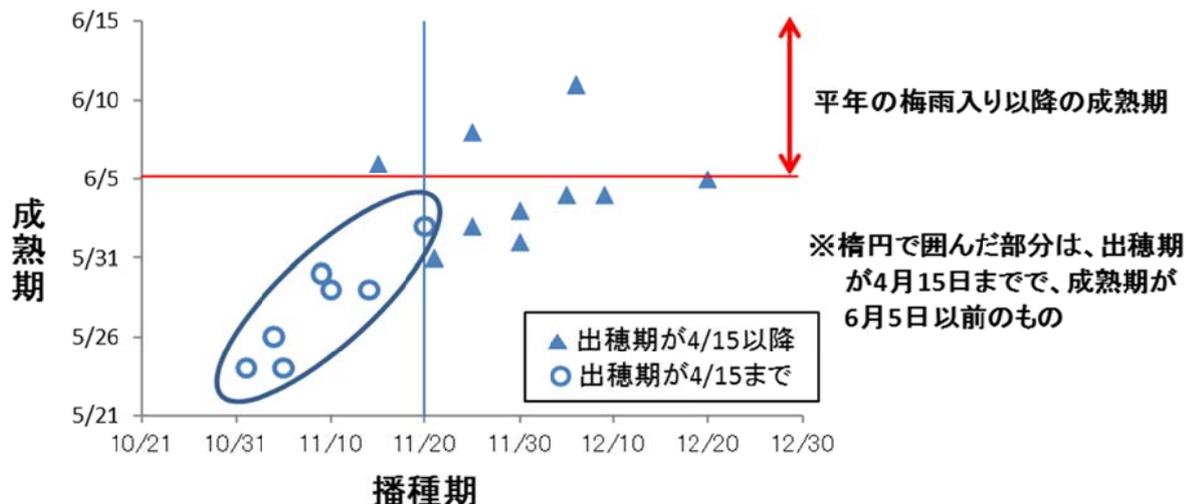


図1. 「ミナミノカオリ」の播種期と成熟期の関係

表1. 「ミナミノカオリ」の作期試験における出穂期と成熟期、収量、品質

	播種期	出穂期	成熟期	登熟期間 (日)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/l)	検査 等級	タンパク質 含有率(%)
H23年産	11/15播種	4月16日	6月6日	51	277	36.6	806	1等下	14.1
	11/25播種	4月18日	6月8日	51	256	38.0	817	2等上	12.5
	12/6播種	4月23日	6月11日	49	395	37.5	759	規格外	13.6
H24年産	11/4播種	4月5日	5月26日	51	378	42.9	806	1等上	10.3
	11/10播種	4月9日	5月29日	50	360	42.1	814	1等上	10.6
	11/21播種	4月15日	5月31日	46	367	42.3	799	1等上	10.7
	11/30播種	4月17日	6月1日	45	347	42.2	800	1等上	10.9
	12/9播種	4月21日	6月4日	44	300	40.9	798	1等上	10.7
	12/20播種	4月22日	6月5日	44	251	40.6	785	1等上	10.8
H25年産	11/1播種	3月31日	5月24日	54	375	44.8	833	1等中	10.7
	11/9播種	4月5日	5月30日	55	327	43.7	823	1等中	10.3
	11/20播種	4月14日	6月2日	49	443	44.5	824	規格外	11.2
	11/30播種	4月16日	6月3日	48	335	44.7	820	規格外	11.3
H26年産	11/5播種	4月3日	5月24日	51	416	42.7	841	1等中	10.8
	11/14播種	4月10日	5月29日	49	464	43.2	840	1等中	11.4
	11/25播種	4月17日	6月2日	46	465	41.5	835	1等中	11.6
	12/5播種	4月19日	6月4日	46	473	41.7	840	1等中	11.2

※施肥は10a当たり窒素成分で、基肥:6kg、追肥Ⅰ:3kg、追肥Ⅱ:3kg、穂揃期追肥:4kg

※収量、千粒重、容積重、検査等級は2.5mm篩目調製、水分12.5%換算

※検査等級の「規格外」は、穂発芽の発生によるものである

※試験期間中においては、凍霜害の発生はみられていない

※子実タンパク質含有率は、水分13.5%の値

[その他]

研究課題名: パン・中華めん用小麦の安定生産技術の確立

新たな需要に対応した高品質安定多収栽培技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成22~26年度

研究担当者: 浅川将暁、秀島好知、山口喜久一郎、牧山繁生、森敬亮